



つわの

9月定例会
議会だより



畑迫ふれあい大運動会 平成26年10月12日(日) 畑迫体育館

平成26年 第7回定例会

- 補正予算 2
- 決算審査 3
- 一般質問 4～8
- 条例改正・町道認定・意見書等 9
- 総務経済常任委員会・文教民生常任委員会所管事務調査 10
- 賛否表 11
- この人にインタビュー・編集後記 12

No.36 (2014)

平成26年10月20日発行
島根県津和野町議会
TEL 0856-74-0089
E-mail gikai@town.tsuwano.lg.jp
印刷：津和野印刷

主な補正予算の内容

5億円を超える大きな補正予算案。CAS (セルアライブシステム・細胞組織を活かす装置) 付急速凍結装置機器導入 や 青原小学校校舎改築工事屋外整備工事費、青原児童クラブの工事費増額などについて質疑が行われました。

Q：CAS冷凍機器導入の財源は。

A：全額国からのがんばる地域交付金を充てる。

Q：工事費として一括計上されているがCAS機器は備品購入費ではないか

A：室外機、配管工事などと切り離せない。

Q：青原児童クラブ設計額増額の理由と事業費総額は。

A：2300万円ほど。6年生までの受け入れ要望に応え当初より建物の規模が大きくなるため。

Q：青原小学校屋外整備工事の内容は。

A：校庭の水はけの悪さや外周のフェンス老朽化に対応する。

《歳出の主なもの》

千円以下切捨て

総務費	木尾谷集会所建設事業補助金	392万円
	ドイツ森鷗外記念館30周年記念式典出席旅費	159万円
民生費	国保、介護特別会計への繰り出し金	173万円
	青原児童クラブ工事請負費	962万円
農林水産業費	地域食材供給施設整備事業費	1億2942万円
	農地中間管理機構集積協力金	655万円
商工費	「町家ステイ戎丁」防火設備強化工事費	226万円
	日原蚕の人工飼料育研究センター改修工事費	340万円
土木費	町道舗装、排水路回収など工事費	1250万円
教育費	青原小学校校舎改築工事屋外整備工事費	1900万円
	木部小学校校舎耐震補強改修工事費	1億6567万円

CAS冷凍機器導入 5億5076万円追加の補正予算案可決

付加価値をつけ産業振興めざす

総額100億7814万6千円

津和野町 平成25年度各会計決算

☆9月議会において決算審査特別委員会を設け、決算審査を行った。

・審査日 9月12日・22日・24日・25日・26日 (5日間)

・委員会 岡田 (正) ・米澤 (副) ・後山・川田・丁 (以上5名)

○実質公債費率13.2%に改善、 町税滞納額は大幅に減少

会計別	歳入総額	歳出総額	差引額
一般会計	87億8923万2907円	86億4607万6258円	1億4315万6649円
特別会計	45億253万2578円	44億5257万2045円	4996万533円

病院事業会計	収益	費用	差引額
	7億4369万2498円	7億4287万2184円	82万314円

☆基金残高 **44億2295万9千円** (前年比5億7737万6千円増)※

☆地方債残高 **116億4280万7千円** (前年比2億8581万3千円増)※

町民1人当たりの借金 143万8千円※

実質公債比率 13.2% (前年度より1.9%減)

※

滞 納 額 一 覧	町税	6097万7千円	前年比1954万4千円の大幅な減少
	国民健康保険税	2596万9千円	前年比627万円減少
	住宅使用料	823万7千円	前年比94万4千円の増
	保育料等	160万5千円	前年比41万6千円の増
	水道料金等	1029万4千円	前年度比105万6千円増
	下水道料金	189万3千円	前年度よりも18万千円の増

(※ 千円未満切り捨て)

※審査意見

○町税の滞納額の大幅な減少は、堅実な滞納徴収の執行と、職員の県との併任制度によると思われる。厳しい町内の経済状況であり、温かみのある話し合いを行いながらも、税の公平性の観点から、今後も強い徴収姿勢で臨むべきである。

○滞納額が前年度より大幅増となっている住宅使用料は連帯保証人に対する滞納徴収、保育料等は話し合いによる児童手当からの差引等も考慮すべきである。

○昨年度のふるさと納税が798万6千円(前年比347万1千円の増)となっておりより魅力的なふるさと納税システムを構築すべきである。文化施設の入館者数が大幅減となっており、入館料収入も貴重な財源であり、観光協会等と協力しながら増加対策を講じるべきである。

○職員の時間外勤務 16468時間(6253時間の増加)

昨年の豪雨災害の復旧事務により、建設課職員等は膨大な時間外勤務となっており、心身共に適切なケアに心がけるべきである。なお、経験年数や個人の事務処理能力の差により、時間外勤務に大きな差が出ている。適切な人員配置とともに、担当業務の適切な配分、人事管理の徹底を図るべきである。

随意契約

	応札者	受注者
町内	37	26
町外	52	51

指名競争入札

	応札者	受注者
町内	38	6
町外	7	2

町HPに公表されていない入札

	応札者	受注者
町内	75	32
町外	59	53

町長 町HPにおいて公表していない入札は次の表の通り。

川田 剛議員 問 津和野町ホームページにおいて公表されていない入札について町内業者の落札の割合について問う。

Q 下請業者を町外の業者にすることはどうか

A 町内業者が望ましい

なお、「津和野町公共工事の入札及び契約に関する情報の公表規定」に基づき、基本的に250万円以上の公共工事については、町ホームページ等で公表することになっている。

問 津和野町が実施する指名競争入札、一般競争入札の地元業者並びに地域要件の所見について問う。

町長 「津和野町建設工事等入札参加者等選考要綱」第2条の基本方針に基づき、極力地元業者に受注機会の確保を図るように考慮している。

問 落札業者が下請け業者を町外業者にすることについて所見を問う。

町長 公共工事を通じた地域経済活性化の波及効果拡大を図るため、町内業者を下請人とすることが望ましいと考える。ただ、下請業者の選定にあたって、行政から強制力はない。町内業者を極力下請業者に選定をするお願いについては機会あることに行っている。

【その他の質問】

- 一、保育園統廃合
- 一、自伐林業の促進

Q 町職員の住所は町内へ

なるべく努力する



丁 泰仁議員 問 町外住所から勤務する職員が総職員中何名いるか

町長 144名中19名いる。

問 今、当町は人口を1人でも増やしたいがために、大金を投入してつわの暮らし推進住宅というビッグプロジェクトを推進中だ。「まず隼より始めよ」という故事がある。身近な事から手掛けるべきだ。婦女子の婚姻による移転などの例外を除いて職員住所地は町内が望ましいがいかかが。また、このことが地方交付税にも良い結果をもたらすがどうか。

町長 なるべく努力する。

Q 公営住宅の建替え予定は

A 災害工事のため2年延長

問 平成26年から順次始まる中座住宅、中島住宅の個別改善及び建替えは予定通り実施されるのか。また、元藩庁跡住宅の用途廃止の

件はいかかが。

町長 災害復旧工事のため、全て2年延長の28年から開始予定になる。

問 事業開始にあたってはくれぐれも住民との話し合いを重視し不安感を与えないように留意してほしい。

町長 十分承知している。

Q 文化ホールの建設実現は

A 平成27年準備委員会設立

問 「山陰の小京都」の知名度を生かしながら「文化振興」による観光復活を図るために欠かせない、町民の文化活動の拠点「文化ホール」の建設時期は。

教育長 平成30年頃から建設計画となる。

Q 図書館の新施設は可能か

A 今のところ予定にない

問 町民の図書館活動に必要な規模の新施設を望む。

教育長 今のところ、具体的な新館の建設計画はないが、身の丈に合い、核となる施設は必要と考えている。

Q 小規模・分散で端っこを活かした定住策を

A 住民協働で住みよい地域づくりを目指す



京村まゆみ議員 問 日本創成会議が公表した「消費可能性都市」の試算

データでは、津和野町の若年女性減少率は77%で、消滅可能性自治体のワースト49番目である。一方島根県中山間地域研究センターのしまねの郷づくりカルテでは田舎の田舎に人口の社会増が現れはじめ、新たな方向として小規模・分散で端っこを活かした定住策を提案している。現状をどうとらえ分析しているか、また二つの提言をもとに当町の進むべき方向をどのように考え具体的施策に反映していくのか。

町長 当町の中でも中心部である津和野公民館エリアの人口減少率は25・5%と極めて高く山間部のみでなく町全体の重要課題であると認識している。まちづくり委員会との協働で安心、安全な住みやすい地域づくりを目指す。つわの

暮らし推進住宅整備や保育料の軽減をはじめとして、CAS冷凍機器導入、IT企業を中心とした誘致、創業支援など推進するとともに、地域包括ケアシステムをより精度の高い仕組みとして構築することで医療・福祉の充実へつなげていきたい。

Q 買い物不便者対策は事業の今後の展開

A 移動販売に高齢者の見守り機能を持たせた展開へ

問 委託事業として展開されているが、補助金頼みの移動販売だけを中心を考えるのではなくマルシェや道の駅野菜市などの連携なども視野に入れるべきでは。

町長 今後情報共有しながら進めていきたい。福祉施策とも絡め9月以降ウェブマップを作成予定である。



Q 地域提案型助成事業の反省点と新規事業の構想は

A 人的支援の強化と意見交換会で方向性を示したい



後山幸次議員 問 全町12地域の3年間事業は紆余曲折もあった。ま

たこれほど物議をかもし施策とは思わなかった。人的支援の活動状況と財政的支援が、町民に平等な施策であったか。反省点について問う。

町長 町内12地域全て加入され当初の目的は達成できたと考えている。コーディネーター3名、集落支援員5名、各地域担当職員配置したが万全であったとは思っていない。今後は委員会の運営を含め総合的な人的支援を一層強化する必要があると考えている。

問 新規事業に対し、試行錯誤されているが事業構想で念頭において頂くことは、憲法14条により、「全ての国民は法の下に平等であり、社会的身分又は門地により差別されない」とある。新規事業は熟考されている構想中と思うがどうか。

町長 12地域の委員と意見交換会を実施し、意見等を踏まえ27年度の方角性を示したい。

Q 「町屋ステイ戒」のオープンはいったい

A 秋の観光シーズンに体制を整えたい

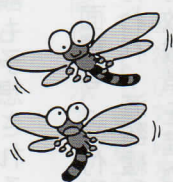
問 年度を越え完成し、観光シーズンにオープンできなかった。旅館、ホテル同様に消防法には適合していたのか。オープンできない理由は。

町長 保険所より旅館の一種に該当する旨の連絡があり、益田県土建築課と協議したが、保険所の指導に従い、消防法の適合のため一部排煙施設等改修費を今議会に提出し、秋にはオープンしたい。

【その他の質問】

一、堤外水路の改修について

一、スポーツ振興について



Q 住民協働のまちづくりの総括は

A 課題共有の機運が高まった



議員 板垣敬司

問 町内12委員会での聞き取り調査を終えられた中でどのような総括をされたか。27年度以降はどのような視点で取り組まれるか。

町長 事業評価シート「5つの視点」で評価した。自治会、集落内での課題を共有する機運が高まった一方、補助金の活用については不十分などところも見られた。第2ステップとして、12委員会に主体性を持たせることやまちづくりや地域の元気が出る企画提案を未来協働会議等に図って支援していくことを検討したい。

Q タクシー事業の報告を

A 付加サービスの検討中

問 地域公共交通（タクシー事業）に関する調査検討について現時点でどのような報告を受けているか。

町長 営業サイド以外の付加的サービス、例えばガイド付き観光タクシーやチャイルドシートを装備して乳幼児や保護者を運ぶ育児支援サービス、買物支援等福祉サービスがどこまで付加することができかねの提案を頂いている。

クシーやチャイルドシートを装備して乳幼児や保護者を運ぶ育児支援サービス、買物支援等福祉サービスがどこまで付加することができかねの提案を頂いている。

Q 国民健康保険会計に報奨金制度を

A 検証したい

問 特定健康検診等を受診されて1年間医師にかからなかった方やスポーツや健康事業に参加した人に褒賞金制度は導入できないか。また地域医療・介護総合確保推進法により要支援者の介護予防サービスが町村の地域支援事業に移行される。この対応はどのようにするか。

町長 総社市では「健康で1万円キャッシュバック事業」「そうじゃ健康マイポイント事業」を実施している。導入効果等先進事例を検証してみたい。地域支援事業については、今年度予定している第6期介護保険事業計画で具体化していきたい。【その他の質問】一、歴史的風致維持向上計画進捗



Q 合併浄化槽の維持管理費補助を

A 合併浄化槽の負担軽減を図ることは必要



議員 岡田克也

問 4年連続水質日本一の高津川のためには

下水道と合併浄化槽の整備が有効。合併浄化槽は、下水道と比較して設置・維持管理費が高額であり、まず法定点検費用分の助成から行つべきでは。

町長 下水道整備区域と合併処理浄化槽整備区域における個人負担の格差軽減を図ることは必要と認める。財政状況から今後慎重に検討する。

Q 交付税の大幅な減額に備えるべきでは

A 行財政改革を進める

問 合併特例の交付税の減額等により、平成33年度からの交付税は現在と比較して5億円程度の減少が予想される。人口減少が著しい

当町は、来年の国勢調査により交付税の減額も予想されるが対策は。

町長 町の面積等、交付税算定の見直しが行われ、減額緩和が行われる。行財政改革を進めながら、財政の安定化と積極的な町づくり事業の展開の両立を図る。

Q 学校再編計画は

A 大きな児童数の増加が見込めなければ閉校の判断を尊重する

問 日原小学校へ入学を希望している左鐙地域の幼児の保護者もある。町の定めた再編基準に満たなかった場合、左鐙に雇用も生まれ、地元の人々が高齢者・障がい者になっても左鐙ですっと暮らせる高齢者福祉施設への左鐙小学校の転換を地域振興策として打ち出し、地元出身の児童がいなくなる再来年3月に統合を行つべきではないか。

町長 本年度の統合は1年見送り、平成27年4月に大きな児童数の増加が見込めない場合、平成27年6月議会で学校統合関係の条例案を提出する旨を教育委員会から伺っている。教育的見地を優先した閉校の判断を尊重する。今後の地域振興策は検討する。

Q 避難所に太陽光発電設置を

A 導入の是非を検討する



米澤 宏文 議員

問 昨年8月の災害後、全国各地で大災害が発生している。

昨年の名賀の大災害時停電を教訓に、孤立の恐れのある避難所と救急患者の集中する津和野共存病院に、安全安心の為、太陽光発電設備を設置してはどうか。

町長 災害発生後避難所で一時的な生活の為、発電設備等の整備で一定の生活水準の確保は重要であり、太陽光発電設備は必要である。財源、耐震性等を考慮し導入の是非を検討する。

Q 津和野城跡の樹木伐採

A 文化庁等と協議を進める

問 今年6月、災害復旧事業の仮設道が始まり完成は27年度末。城跡では「石垣の天敵の樹木の幹と根」による石垣の崩落と膨れが数十か所ある。国の史跡指定は城跡であり明治5年の城の建物解体から144年の間に自然生えて大き

くなった樹木ではない。

町民の又国民の宝である津和野城の石垣を崩壊する樹木の伐採を文化庁・県・町民のご理解を得て進めるべきではないか。

教育長 津和野城跡は国史跡の他に県立自然公園の指定で樹木伐採は、文化庁・県自然環境課等の許可申請が必要となる。津和野城跡整備検討委員会に諮り文化庁等と協議し事業を進める。

Q 町家ステイ戎丁の進捗状況は

A 賃貸条件・宿泊料等の説明をした

問 町家ステイ戎丁と伝統芸能交流館の進捗状況について。

町長 8月初旬頃オープン予定であったが旅館に該当し、消防用設備等の設置工事で暫らく時間を要す。目的は「津和野に暮らすように旅する」で町家1軒貸し、泊食分離で町内の旅館・ホテル、飲食業との連携を強める。

歴史的建造物を固定資産税程度で町が30年間借り改修。

指定管理者は町観光協会で宿泊料は繁忙期最高で2人宿泊1人2万2千円から閑散期5人宿泊1人5千円等を設定予定。

伝統芸能交流館は所有者の方と締結に至っていない。

Q 水田農業の推進方策は

A 飼料用米等への転換を奨励し、国に必要な要請を行う



阿部 洗剛 議員

問 JA全農島根は、26年産島根一等米(A)

30kgの玄米価格が4500円で、昨年比で1600円と大幅な減額となり、粗収益が経営費を下回ると予想される。併せて米の直接支払交付金10aあたり1万5千円が本年度より半減し、再生産がややぶまれる非常事態である。当町の水田農業の推進方向を尋ねる。

町長 大幅な米価下落と交付金の半減により水稲生産農家の経営は厳しい状況となる。平成30年産米から減反政策の見直し等、米価下落が更に進むと予想される。経営を考えるならば、飼料用米や飼料(WCS)用稲等、新規需要米への転換が対応策となる。

問 飼料用米やWCS用稲への転換は、飼料の自給率向上や転作面積の拡大、耕作放棄地の防止に繋がると考えるが。

町長 飼料用米等の作付は水田活用の直接支払交付金の支援もあり、飼料の地産地消が畜産コスト低減に繋がり、転作作物として町内流通の仕組みの確立が必要と考える。

問 飼料用米等への転作促進で主食用米の受給が安定するまで、米価安定の為の施策を講じるよう関係機関と連携し、国へ要請すべきではないか。

町長 来年度から収入減少影響緩和対策(ナラシ)対策に加入できない小規模農家430戸の水稲作付面積は、町全体の半分を占め、米価下落措置を受けられない状態となり、JAや関係機関と連携して、国に必要な要請を行う。

Q 地域提案型助成事業の今後の対応は

A 11月を以て来年度以降の方策を示す

問 町づくり委員会のヒアリングを踏まえて、今後の対応を尋ねる。

町長 評価シート、意見交換会を踏まえて方向性を示す。

Q 保育士の雇用条件改善を**A 改善に努めたい**

議員 寺戸昌子

問 保育園

維持のために必要な保育士の不足は低賃金、重労働、期間雇用など雇用条件の悪さが原因。浜田市では雇用条件の改善により保育士を増やした。津和野町は改善するのか。

町長 安心で安全な保育環境のため保育士の就労条件等の改善にも努める。

Q 小さな災害の復旧は**A 緊急な工事は実施中**

問 豪雨災害の復旧工事のうち小さな工事は3年待つて欲しいと言われたが緊急なものに対応はされているのか。

町長 緊急な対応が必要な工事は応急復旧工事を多数実施している。その後も安全や緊急性、効率性などを考慮し優先順位をつけ工事発注している。

Q 放課後児童クラブについて対象児童を広げるのか**A 6年生まで広げる**

問 来年度4月から施行予定の子ども・子育て支援新制度で対象が6年生にまで広がる。この事に期待がある。津和野町ではこの制度を取り入れるのか。

町長 対象児童を6年生までにし、支援の拡大を図りたい。

Q 受け入れ児童の増加に伴う施設不足の対策は**A 検討中**

問 現在の施設では狭いので受け入れ児童を増やすことが難しいと考えられる。どのような対策を考えているのか。

町長 新たにファミリーサポートセンター事業を開設して放課後の預かりをする案が出ている。更なる検討をしていく。

Q 青原小放課後児童クラブの完成は**A 校舎の完成と同時期**

問 青原小放課後児童クラブの完成はいつか。指導員や保護者の要望を設計図に反映させているか。

町長 校舎の完成に併せ完成予定。利用しやすく安全な建物となるよう視察をしたり指導員の要望を聞いたりしている。

Q 今後の防災対策は**A 自主防災組織結成を促進・防災行政無線の導入**

議員 草田吉丸

問 昨年の

豪雨災害や広島豪雨災害など異常気象が続く中、これらを教訓とした防災対策が必要である。今後の防災対策については。

町長 ソフト面で自主防災組織結成促進と防災士資格支援事業に取り組む。ハード面として防災行政無線の導入を平成27年度以降取り組む。

Q 空き家対策条例の制定を**A 当面空き家実態調査を計画**

問 空き家が増加傾向にある。老朽化による倒壊の危険、景観の悪化、犯罪の誘発など生じることが考えられる。住民が安心して暮らせるまちづくりのためにも「空き家条例」の制定が必要と考える。

町長 今年度から空き家の実態調査を計画している。利活用の促進

と合わせ条例化を検討し、老朽危険家屋の対策を考えていきい。

Q 地域おこし協力隊の活動は**A 13名が各部所で活動**

問 地域おこし協力隊の制度概要と現在の活動状況については。また町民への周知方法については。

町長 隊員一人につき400万円を上限の特別交付税の財政支援がある。現在13名の隊員が各部所において活動している。また、ファウンディングベース事業として津和野高校、観光、農業の各分野に6名配置して活動している。各活動については広報や活動報告会などで行っている。

Q 親切的な窓口対応を**A 最重要業務として対応**

問 高齢化の進む中、親切でわかりやすい窓口対応が求められている。窓口行政の基本姿勢について。

町長 窓口業務は最重要業務の一つである。職員個人の接客能力を高め、より一層の住民サービスに努めて参りたい。

条例改正

●津和野町伝統的建造物群保存地区における建築基準法の制限の緩和に関する条例

伝建地区内の伝統的景観を守るため、軒、ひさし、うだつなど町長の許可を得た場合に限り道路側溝の半分までは突き出して施工できる。

●津和野町課設置条例の一部改正

事務分掌のうち土地改良事務を農林課から建設課に移管。

●津和野町税条例の一部改正

小型特殊自動車の税率改正

●津和野町非常勤の職員等の報酬及び費用弁償支給条例の一部を改正する条例

歴史的風致維持向上協議会及びまちなか再生推進協議会出席1日につき7300円とする。

条例案件は全て可決

契約案件

●町営バス用車両売買契約

契約金額 799万円
契約者

ハシモト自動車工業有限公司

●戸谷浄水場施設整備工事請負契約

契約金額 1億3716万円
契約者 株式会社 日成建設

●簡易水道遠隔監視設備工事請負契約

契約金額 6048万円
契約者

株式会社 内村電機工務店
契約案件はすべて可決

意見書

●米需給調整対策等に関する意見書（案）

提出者 御手洗剛
賛成者 岡田 克也

米の大幅下落に対応する施策を国に求める。①過剰米を主食用米市場から隔離すること。②収入減少影響緩和対策や特例措置の交付期間の前倒しと条件不利地での特例措置を延長すること。③コメの消費拡大運動を強力に推進すること。

可決（全員賛成）

※国の関係機関に意見書提出
●手話言語法制定を求める意見書（案）

提出者 板垣 敬司
賛成者 米澤 宏文 川田 剛

可決（全員賛成）
※国の関係機関に意見書提出

請願書

集団的自衛権行使を容認する憲法解釈の変更の取り消しを求める意見書の提出に関する請願

請願者

9条を守るう益田・鹿足連絡会

大住 共平
紹介議員 寺戸 昌子

不採択（賛成少数）

賛成討論・京村

憲法の原点は、武力による戦争抑止ではなく、徹底した平和主義と考える。一内閣による閣議決定に抗議の意味をこめ賛成する。

反対討論・岡田

国民的議論を経ることなく、閣議決定がされたことに對する懸念は、6月議会で示した。議会のたびに反対の意見書を提出すれば、国と町との関係を壊すことになるため、反対する。



町道認定

全員協議会

●つわの暮らし推進住宅の家賃設定

Iターン、Uターン者を優先的に入居を考えている。家賃は3万円に設定する。

●津和野町地域食材供給施設改装工事

道の駅シルクウェイにちはらの食材供給施設「蟹ヶ瀬」を有効活用するため、改装して「CAS冷凍機器」を導入し、わさび、鮎、栗、里芋、イノシシ肉、冬虫夏草、JF魚介類を冷凍保管し、加工販売する。工事費は1億2942万円

●広島豪雨災害義捐金

津和野町議会より義捐金を送りました。

路線名	位置	延長
左 鐙 向 橋 線	左鐙	29.5m
石 南 山 支 線	池村	40.0m
青 原 駅 前 本 線	富田	46.0m
青原駅前支線1号	富田	33.3m
青原駅前支線2号	富田	42.1m
須 川 田 中 線	須川	102.5m
左 鐙 向 線	左鐙	368.5m
畑 線	池村	380.0m
石 南 山 線	池村	650.0m
青 原 駅 前 線	富田	154.1m

・所管事務調査報告・

☆総務経済常任委員会

津和野町の産業振興について

◎にちらはら総合研究所

調査日 平成26年7月28日

調査意見

津和野式冬虫夏草は飛躍的に売り上げを伸ばしており、産業の乏しい中山間地の当町にとって、産業振興・雇用創出の一つの核となるべき要素を備えている。町として全面的にバックアップを行い、町内における養蚕や桑畑の造成等が必要である。町が一体となって、増産体制の構築と一層のブランド力向上を行い、事業の拡大や海外進出に備えるべきである。



まゆ切り作業
写真提供 にちらはら総合研究所

◎津和野町商工会

調査日 平成26年9月3日

調査意見

津和野町は人口減少が著しく、商工業者の経営も厳しい状況である。空き店舗の増加は、町の魅力・活力・景観を悪化させるため対策が必要である。津和野町商工会の要望事項である包括支援事業の継続と創業者に対する一時金措置、空き店舗修繕補助は有効と考える。全国のプロの菓子職人等から極めて評価の高い津和野栗を町内で一貫して生産・加工・販売できることは、町内経済への波及効果が見込まれ、町としてできるだけ支援を行うべきである。

◎津和野町観光協会

調査日 平成26年9月3日

調査意見

津和野町にとって、空き家・空き店舗対策は重要な課題であり、空き家条例の制定や、空き家・空き店舗の活用対策が必要である。津和野町商工会・津和野町観光協会と町が連携して、条例の制定や補助制度を講じるべきである。

☆文教民生常任委員会

津和野町教育ビジョンの進捗状況及び現状の調査

調査日 平成26年6月20日

9月11日の9日間

調査意見

◎学校教育

①教育ビジョンの具体的取り組みの実施主体が教育委員会サイドか学校サイドかの判別不明な項目がある。取り組みの分担を明確にされビジョンの更なる向上を図りたい。

②公認陸上競技場である津和野中学校の校庭は水はけ不良である。降雨で鹿足郡陸上大会を度々中止している。生徒の体力向上とスポーツ振興のためにも早期に改善をされたい。

③日原小学校体育館横の水路は降雨後長時間の滞水で害虫発生への恐れがあり不衛生である。また、雨水タンクの基礎にも滞水があり不衛生である。早急に改善をされたい。

④町営英語塾「HANKOOT」(18時30分～22時まで開塾)塾生85人の帰宅時の交通の便宜を図

り、更に多くの受講生の確保を図りたい。

⑤津和野高校の遠距離通学生への保護者負担軽減と更に多くの生徒確保のため、通学費補助金の増額を検討されたい。

◎社会教育

①津和野町教育ビジョン前期3年間の最終年半ばであるが、「検討課題」や「方向性を示す」、「未実施」等がある。

教育ビジョン前期の末まではあと6カ月あるが、具体的取り組みが予定通り達成されるよう努力されたい。

◎文化振興

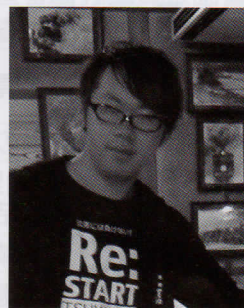
①津和野町教育ビジョン前期3年間の最終年半ばであるが、未実施項目で実施可能なものについてさらに努力されたい。



提出者		第7回 9月定例会 賛否表										後川米岡草丁寺御三京板結 山田澤田田戸手洗浦村垣果	
		○＝賛成 ●＝反対 欠＝欠席											
町長	固定資産評価審査委員会委員の選任（無記名投票）	田淵 晴男氏										可 決	
	固定資産評価審査委員会委員の選任（無記名投票）	坂根 敏夫氏										可 決	
	固定資産評価審査委員会委員の選任（無記名投票）	下瀬 良雄氏										可 決	
議会	議会推薦農業委員会委員	渡邊 幸恵氏											
町長	町営バス用車両の取得	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野簡易水道整備事業戸谷浄水場施設整備工事請負契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	津和野町過疎地域自立促進計画の変更	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	津和野町伝統的建造物群保存地区における建築基準法の制限緩和に関する条例の制定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	津和野町課設置条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	津和野町税条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	●	欠	○	○	○	可 決
	津和野町非常勤の職員等の報酬及び費用弁償支給条例の一部改正	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道左鐙向橋線の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道石楠山支線の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道青原駅前本線の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道青原駅前支線1号の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道青原駅前支線2号の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道須川田中線の路線認定	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道左鐙向線の路線認定の変更	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道畑線の路線認定の変更	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道石楠山線の路線認定の変更	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	町道青原駅前線の路線認定の変更	○	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野町一般会計補正予算（第4号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野町国民健康保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	●	○	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野町介護保険特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野町簡易水道事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野町下水道事業特別会計補正予算（第2号）	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可 決
	平成26年度津和野簡易水道整備事業遠隔監視設備工事請負契約の締結	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	可 決
	平成25年度津和野町一般会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町国民健康保険特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町介護保険特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町後期高齢者医療特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町簡易水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町下水道事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町農業集落排水事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町奨学基金特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町電気通信事業特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町診療所特別会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町介護老人保健施設事業歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
	平成25年度津和野町病院事業会計歳入歳出決算の認定	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	認 定
請願	集团的自衛権行使を容認する憲法解釈の変更の取り消しを求める意見書の提出に関する請願	●	●	●	●	○	○	欠	●	●	○	●	不採択
議員	手話言語法制定を求める意見書の提出	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	可 決
	米需給調整対策等に関する意見書の提出	○	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	可 決
町長	第5回 7月臨時会												
	青原小学校校舎改築工事請負契約の締結	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可 決
	第6回 8月臨時会												
	平成26年度津和野町一般会計補正予算（第3号）	○	○	○	○	○	欠	○	○	○	○	○	可 決

この人にインタビュー

SLの大切さ、山口線の重要さ!



SLやまぐち地域振興会

会長 吉永 弘さん

*津和野町と関わるようになったきっかけを教えてください。

平成23年にSLやまぐち号が好きで10名の有志が集まったのがきっかけで、活動が大きくなっていました。ただ、SLが好きで集まっている仲間ではなく、地域のために何かしたい、という仲間で、山口県から協力を得たりしながら組織化をしました。僕は小さい頃からSLやまぐち号が好きなのですが、中でも爆煙が大好きです。それで毎週末実家の小郡から津和野まで来て写真を撮っています。そこで津和野の地域の方々と知り合うようになったのがきっかけです。9月末までは今昔館でお手伝いをしています。

*全国のSLを撮影されている吉永さんにとって、津和野町の魅力とは何でしょうか。

全国のSLはほとんど見ま

した。最近ではよく人吉（熊本）に行っています。津和野の良さは、田園風景や開けた風景、空気の良さ、人の温かみのあるところだと思います。
*8月から山口線が全線再開を果たしました。また、SLやまぐち号が津和野に戻ってきました。お気持ちを聞かせてください。

まず、部分運転でひと安心しましたが、復興の早さには正直驚きました。SLの大切さ、山口線の重要さを理解してもらい、津和野の人にも山口線を大事にしてもらいたいです。

*SLやまぐち号への思いをお聞かせください。

やまぐち号はC 57-1で、D 51、C 62に並ぶSLのトップ3なんです。そして津和野を走るC 57は、C 57号の1号機という意味で「C 57-1」なんです。これはすごいことです。これまで長く活躍してきたC 57-1の寿命が心配されてきました。今年、延命工事が実施されました。僕が思うに、まだ40年は走れるようになったと思います。

*最後に津和野町議会に期待する事

がありますか。

山口の人間としても津和野を盛り上げていきたいので、活動を応援してもらえ環境をつくってもらいたいですね。それとSLファン、地域の人々が交流できるSL博物館をいつかは津和野に、という思いもあります。

*ありがとうございました。



聞き手：川田 剛（9月27日取材）

編集後記

サッカースポーツ少年団の指導や大会などの引率をしている。ある日の大会、空いた時間にスマートフォンゲーム「パズル&ドラゴン」をしていると子どもたちが集まってきた。ついたあだ名は「パズドラコーチ」。以前監督が「スポーツは、ゲームやテレビから離れられるからアウトメディアにもなる」と力説されたのを思い出した。時すでに遅し。保護者からもパズドラコーチと呼ばれる始末。それからというもの、指導や引率中は極力スマートフォンを触らないように心がけている。

さて、「スポーツの秋」が到来する。町内でも駅伝大会や各スポーツの大会、グラウンドゴルフやソフトバレーなど様々なスポーツが繰り広げられる。健康増進やアウトメディア、世代間交流とスポーツの意義はいろいろあるが、まずは純粹にスポーツを楽しむことをおすすめしたい。

川田 剛

議会広報編集委員

◎岡田 克也 ○川田 剛

後山 幸次 京村まゆみ
草田 吉丸 寺戸 昌子